



# 2021.12.19(日) ときなん学区防災訓練 いざというその時のために



発行所  
常磐南小学校  
電話 46-2005  
FAX 46-2048  
— 第19号 —  
2021.12.31



奈良少年刑務所にいた少年が、こんな詩を書いた。

### 言葉

「いいんだよ」

「がんばったね」

「よくやった」

この言葉がほしい

この言葉が ボクを幸せにする

「お前はアカン」

「でき悪」

「お前はいらぬ」

この言葉は いらぬ

## 言葉

2021.12.31



寮三千子さんの講演を聴きました

校長 都筑 祐一

この言葉は ボクを不幸にする

嫌な言葉を言われると 自信をなくし

自分自身が嫌になる

好きな言葉を言われたくて 行動し

ボクは ボクを見失う

一つ一つの言葉が ボクを造る

一つ一つの言葉が ボクを壊す

この詩は、寮三千子さんの著書、

「あふれでたのは やさしさだった」の中にある。

その寮さんのお話を、直接聞く機会に恵まれた。

寮さんは、奈良少年刑務所に10年間勤務した。絵本と詩の授業で、少年たちの更生に力を注いだ。

「加害者として刑に服している彼らは、もともとをただせば、みな被害者でした」

生まれつき悪い人間なんていない。私はこのことを再認識した。

実はこの詩を書いた少年は、外から見れば何不自由ない、恵まれた家庭で育った。そして、ある時期まで親の期待に答えて成績もよく、礼儀正しく、すくすく育った理想のいい子だった。

そんな彼が刑務所に入った。そして、存在を否定する言葉と、自分がいい子でい続けることの苦しさを詩にぶつけた。

12月14日。いじめを考える人権集会を行った。そのなかで保護者の皆さんからいただいた愛のメッセージがスクリーンいっぱいになり、やさしく読み上げられた。

「あなたの味方だよ だから安心してね」

「あなたはあなたのままで いいんだよ」

「あなたは 大切な人だよ」

子どもたちを応援する言葉が、子どもたちの表情を変えていく。

「やさしい言葉に、涙が出てきました」

「最後まで涙をグッとこらえていました」

子どもたちの感想に、言葉の力、言葉の重みを確信した。保護者の皆さんに感謝。そして来年もよい年を。